

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業報告書

プログラム名	県内教員と教職大学院生が協働する継続的な研修プログラムの開発
プログラムの特徴	第一に、栃木県総合教育センターと共催する研修講座(宇都宮大学教職センター・サマーセミナー)に、教職大学院の授業科目の一部を開設することで、教職大学院の学生と県内教員が交流し互いの資質を向上させるカリキュラムを開発・評価する。この連携講座をもとに、科目等履修制度および履修証明制度に向けた仕組みを、関係機関と検討した。第二に、県内の教育センターの研修と教職大学院生が協働する研修プログラムを開発した。具体的には、宇都宮市教育センター主催の「20年目研修」に教職大学院の学生と県内教員が交流する企画を試みた。第三に、県内の教育センターの研修において、デジタルポートフォリオによる継続的な省察と受講者・指導者相互のコメントを実施した。

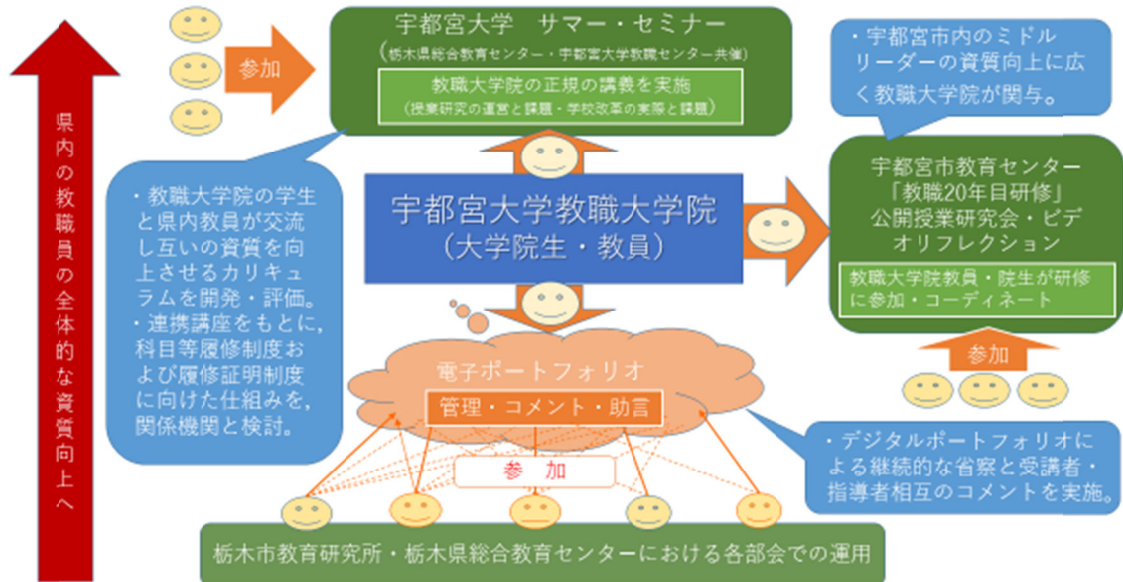
平成31年 3月

機関名 宇都宮大学

連携先 栃木県教育委員会・栃木県総合教育センター
栃木市教育委員会・栃木市教育研究所
宇都宮市教育委員会・宇都宮市教育センター

プログラムの全体概要

県内教員と教職大学院生が協働する継続的な研修プログラムの開発



I 開発の目的・方法・組織

1. 開発の経緯と目的

これからの教員の資質向上には、目の前の具体的な課題に対して瞬時に適切な判断を行う実践的力を高めることが重要となる。このような考え方は、米国の哲学者 D.A. ショーンが提示した「反省的実践家 (reflective practitioner)」という専門家像を前提としている。教員は「状況との対話 (conversation with situation)」を行い、さらに実際の行為の中で「省察 (reflection)」を行いながら理論と実践の融合を図る専門家＝省察的実践者となることが求められる。そのため教員の資質向上を目指して行われる研修には、このプロセスを適切に組み入れる必要がある。

そのため、対象となる教員 (受講生) を一カ所に集合させ、知識や技能を伝達するための研修 (集合研修) には限界がある。一回ないし数回の研修では力量形成の必要性や方向性は示せても、受講生すべての力量形成を見届けることは難しい。また、斉一的な研修では個々の課題を十分に取り上げることができず、一般的な事例の学習 (考察) から個人がどのように学んだのかを看取することは困難である。

近年、集合研修においてもグループ・ディスカッション (GD) やワークショップ型のスタイルが多くなり、研修の当日だけでなく、課題を与えて次の集合研修までに実践や制作を課す場合もある。授業実践を行い、それをビデオに撮って持ち寄り、GD やリフレクションを行うことにより、より具体的、そして個別的に自分の実践の省察を深めることが期待されている。また、それぞれの授業 (記録) を材料にリフレクションを行うことで、OJT の有効性を教員が実感することになり、校内研修の充実にもつながることが期待されている。

これまで栃木県総合教育センター研究調査部では校内研修 (特に校内授業研究) のあり方の調査研究・提言を継続しており、指導主事が学校に出向いて、授業研究会の持ち方について考える事業を行っている。宇都宮大学教育学部教員も、2000 (平成 12) 年頃から、校内授業研究会への指導助言を継続している。単発の授業研究に関わるだけでは学校全体の指導力向上に結びつきにくいことを感じ、年間数回の授業研究会に連続して指導助言者として加わり、その学校の具体的な課題とその克服を共に模索してきた。これらの取り組みは、いくつかの市町教育委員会との連携による「連携研修事業」という形態をとり展開している。

宇都宮大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 (以下、「宇大教職大学院」) では、開設以前のこのような経験に基づいて、教員の資質向上のために継続的な省察を可能にするシステムをカリキュラムの根幹に組み込んだ。具体的には、連携協力実習校における長期の実習「教育実践プロジェクト」(各年次 150 時間以上、学卒院生の 1 年次は附属校における「長期インターンシップ」) と、そこにおける実践と省察を記録し互いに交流し合う「デジタルポートフォリオ」、週に一度大学で顔を合わせて行う「リフレクション」である。更に、授業研究における「ビデオリフレクション」である。

これらのシステムにより、大学での学びと連携協力実習校における実践との往還が図られ、省察力の向上と実践力の向上がスパイラルに高まることが開設3年を経て検証できた。最初の修了生である第1期生の2年間の学びの深まりにこのシステムが大きく影響したことが、聞き取り調査からも明らかになっている。

宇大教職大学院は定員15名(平成31年度より18名)で、現職教員はその内の約10名である。栃木県の中堅教員のごく一部を再教育しているに過ぎない。多くの力量ある中堅教員が必要とされている現状を考え、このシステムを県内の中堅教員研修に役立て、宇大教職大学院で学ぶような効果をもたらしたいと考えた。

そこで、平成29年度、以下の2つの研修に対して、デジタルポートフォリオシステムの運用を試みた。まず栃木市教育研究所の研究員に対する運用である。次に、栃木県総合教育センターの「中堅教諭等資質向上研修」の受講者のうち希望者に対して運用した。

平成30年度は、デジタルポートフォリオに限らず、教職大学院の知見の運用対象を拡大した。第一に、栃木県総合教育センターと共催する研修講座(宇都宮大学教職センター・サマーセミナー)に、教職大学院の授業科目の一部を開設し、教職大学院の学生と県内教員が交流し互いの資質を向上させるカリキュラムを開発・評価することを試みた。第二に、県内の教育センターの研修と教職大学院生が協働する研修プログラムを開発した。具体的には、宇都宮市教育センター主催の「20年目研修」に教職大学院の学生と県内教員が交流する企画を試みた。第三に、県内の教育センターの研修において、デジタルポートフォリオによる継続的な省察と受講者・指導者相互のコメントを実施した。

2. 開発の方法

(1) 連携先との協議

① 宇都宮市教育センターとの打ち合わせ

○期日:平成30年年5月2日

内容:宇都宮市教育センターと20年目研修の進め方について打ち合わせ

参加者:研修担当 菊池 睦 宇都宮大学 松本 敏

○期日:平成30年年9月9日

内容:宇都宮市教育センターと20年目研修学校会場授業研究の日程調整及び出席者調整について

参加者:研修担当 菊池 睦 宇都宮大学 松本 敏

○期日:平成30年12月14日

内容:宇都宮市教育センターと20年目研修第4日の進行について打ち合わせ

参加者:研修担当 菊池 睦 宇都宮大学 松本 敏

○期日:平成31年2月20日

内容:本年度の取組の成果の検証と来年度の計画について打ち合わせ
参加者:研修担当 菊池 睦 宇都宮大学 松本 敏

②栃木県総合教育センターとの打ち合わせ

○期日:平成29年12月6日

内容:サマーセミナーに関する連携の打ち合わせ

参加者:次長 伊藤 満 総務部主幹 植木 淳
宇都宮大学 松本 敏 皆川 純男

○期日:平成30年5月15日

内容:中堅教諭等資質向上研修に関する協働体制について打ち合わせ

参加者:研修部長 水沼 隆 部長補佐 柳田昌臣 指導主事 宇賀神 安代
宇都宮大学 松本 敏

○期日:平成30年6月26日

内容:同上打ち合わせ

参加者:研修部 指導主事 宇賀神安代 宇都宮大学 松本敏

③栃木市教育委員会 栃木市教育研究所との打ち合わせ

○期日:平成30年5月14日

内容:デジタルポートフォリオの運用に関する打ち合わせ

参加者:学校教育課長 大阿久 敦 主幹 平山 裕
宇都宮大学 松本 敏

(2)宇都宮大学教職大学院運営協議会

第一回 平成30年7月10日 事業計画

第二回 平成31年2月22日 事業の報告と次年度の計画

3. 開発の組織

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	教職大学院・教授	松本 敏	全体統括	
2	栃木県教育委員会事務局総務課	大石 務	全体統括	
3	栃木県総合教育センター・研修部長	水沼 隆	全体統括・研修運営	
4	栃木市教育委員会	平山 裕	全体統括・研修運営	
5	教職大学院・教授	久保田 善彦	デジタルポートフォリオシステム構築	

6	栃木県総合教育センター 一研修部・部長補佐	柳田 昌臣	研修運営・メンターチーム統括	他，教職大学院の専任教員は全員メンターとなる
7	栃木市教育研究所	宮堀純也	研修運営・メンターチーム統括	
8	教職大学院・教授	青柳 宏	メンターチーム統括	
9	宇大教職センター・教授	瓦井 千尋	連絡調整	
10	宇大教職センター・コーディネーター	皆川 純男	連絡調整	

II 開発の実際とその成果

1 宇都宮大学教職センター・サマーセミナーにおける教職大学院科目の展開

○研修の背景やねらい

宇都宮大学教職センターでは、栃木県総合教育センターとの共催で、一般教員が参加可能なサマーセミナーを夏期に実施している(平成 27 年度以前は教育学部と栃木県総合教育センターとの開催)。例年、県内の多くの教員が参加しており、平成 30 年度は申込者 407 名、受講者 360 名となっている。講座の内容については、今年度アンケートによれば、受講者の 98%が満足(とても満足+やや満足)と回答しており、セミナーの意義は認知されていると考える。また、サマーセミナーについて履修制限などはなく、多くの教員が異なる講座あるいは同一の講座を複数回受講している場合もある。

そのようなサマーセミナーにおいて、今年度はじめて、教職大学院の正規の授業を開講し、一般受講生と教職大学院生が共に学ぶ機会を設けた。具体的には、「授業研究の運営と課題」(担当講師:人見久城・松本敏)、「学校改革の実際と課題」(担当講師:小野瀬善行)の2つを開講した。教職大学院の有する役割である地域の教育界と連携して教職員の資質向上に務めることを具現化するものであり、本研修開発事業「県内教員と教職大学院生が協働する継続的な研修プログラム」の一環としてサマーセミナーを位置づけることで、県内教員と教職大学院生が協働する継続的な研修プログラムを実施することを企図したものである。

○対象, 人数, 期間, 会場, 日程, 講師について

(1) 授業研究の運営と課題 (実施日:平成30年8月2日(木))

担当講師:松本敏・人見久城(いずれも宇都宮大学教職大学院 教授)

受講者数:13名+教職大学院1年次生16名

会場:宇都宮大学教職大学院棟及び宇都宮大学第7号館 T コモ

教職大学院前期の授業「授業研究の運営と課題」15コマの内、4コマを一般の教職員(経験年数5年以上)と共に学ぶことにより、教職大学院生にとっては広い視野で授業研究の運営上の課題を知ること、一般参加者にとっては、教職大学院での学びを体験し、授業研究の在り方について認識を深めることにつなげることを目的とした。

(2) 学校改革の実際と課題(実施日:平成30年8月3日(金))

担当講師:小野瀬善行(宇都宮大学教職大学院 准教授)

受講者数:12名+教職大学院1年次生16名

会場:宇都宮大学教職大学院棟

学校教育に対する社会的要求の高まりとともに、学校は組織的な学習、個々の教師のエンパワメントがますます求められている。これらの充実は日々の教育実践をよりよいものにするためにも必須といえる。自らの経験や実践をふりかえりながら「学校づくり」のためにどのような理論が唱えられてきたのかを踏まえ、よりよい学校づくりのための複眼的な見方を学ぶ機会を設けることが重要である。そこで本講座では、学校改善のための理論や事例を踏まえ、学校改善のための取り組みについてプレゼンテーションを行うなどの演習を進めた。



(当日の様子:学校改革の実際と課題)

○各研修の内容, 実施形態, 時間数, 使用教材, 進め方などについて

(1) 「授業研究の運営と課題」について

講義では、教員養成・教師教育の歴史から教職大学院という制度の意義と役割を確認し、これからの「学び続ける教員」の在り方について考えることからスタートした。その後、ディスカッション1として、院生と一般参加の教員を混合したグループで、教職大学院での学びなどを話題に、ディスカッションを行った。

次に、授業ビデオの撮り方、授業記録の取り方(児童生徒の動きを中心に時刻と事実を付箋紙にメモすること、解釈は後で議論の中でするので書かなくて良いこと、など)、授業研究会の進め方を確認した。その後、2つの教室に分かれ、小学校算数ま

たは中学校理科のビデオを視聴し、付箋紙に観察したことを記録した。小学校のほうは6年算数「分数で割る割り算」のビデオを検討の材料とした。小学校算数の中でもつまずく子の多い単元であるが、グループ学習によって多様な考え方を示して検討した授業の記録である。中学校のほうは1年理科「気体の性質」の発展的なまとめをする授業のビデオを検討の材料とした。謎の気体Xが、まだ学習していない窒素であることを、これまでの学習を活用して突き止める授業の記録である。こちらもグループ学習によって生徒の多様な気づきがあるようすが記録されている。

ビデオ視聴の後、ワークショップ形式の授業研究会を行った。時間を大まかに記した模造紙に付箋を貼りながら各々の観察を発表した。子どもの様子、授業展開の工夫、などについて話題を焦点化しながら話し合い、図としてまとめた。最後に班ごとにまとめたものを全体で発表した。その後、ディスカッション2として、参加者の参加者のそれぞれの学校でどのような授業研究の問題を抱えているかを報告し、その克服に向けて意見交換を行った。

(2)「学校改革の実際と課題」について

まず、本講座では、学校教育を取り巻く環境の変化を確認するため、超・少子高齢化や AI(人工知能)の発展といったキーワードを取り上げ、学校教育に求められること、子どもたちに必要とされる力について、一般参加の教員と教職大学院生が話し合った。

次に、これまでの学校モデルが産業化時代の学習観を前提としたものであり、具体的には①子どもは「欠陥品」であり、学校は子どもを「修理」する、②学習は頭の中で起きるもので、身体全体で起きるものではない、③誰もが同じ方法で学ぶ、または学ばねばならない、④学習は教室の中で行われ、世界で行われるものではない、⑤「できる子」と「できない子」がいる、以上のような学習観を超えていくためにどうすればよいか参加者間で議論を深めた。そして、新たな学校モデルとして、組織的学習の理論のひとつである、P.センゲの「学習する組織」論を確認し、理論的な要点の理解を深めた。「学習する組織」としての学校のあり方を実現し得るために求められる中核的な学習能力について講義を行った。最後に、上記の中学的な学習能力の中でも「システム思考」について講義し、参加者の中で議論を深めた。その上で、本時の講座全体の振り返りを行った。

2. 宇都宮市教育センター「教職20年目研修」への取り組み

○研修の背景やねらい

宇都宮市教育センターと宇都宮大学教育学部は、以前から研修事業における連携を行っており、本開発事業において「教職20年目研修」での連携を行った。同研修の

目的が「学校における中核的リーダーとして活躍できる資質の向上を図る」とあるように、宇都宮大学教職大学院が目的とする「ミドルリーダー」の育成と合致することから、本開発事業にふさわしいと判断した。

○研修の対象、人数、期間、会場、日程、講師など
「教職 20 年目研修」の概要は以下の通りである。

基本研修		平成30年度 1804	
教職20年目研修			
1	目的	教職20年目の段階に即応した広い視点からの教員としての在り方について考え、学校における中核的リーダーとして活躍できる資質の向上を図る。	
2	対象	教職20年目に該当する小・中学校教諭及び養護教諭等 ※教職20年目未満であっても、本年度中に50歳になる者を含む。	
3	研修時間	研修日によって異なります。「4 研修内容等」を御覧ください。	
4	研修内容等		
区分	期日	研修内容	講師・助言者等
第1日	5/7 月	午前9時30分～12時 午後1時～4時 (受付 午前9時～9時30分)	市教育委員会職員 宇都宮大学 教職大学院 教授 松本 敏先生 (予定) 昭和大医学部 高宮 有介 先生 (予定)
		研修オリエンテーション 講話・演習 「学校組織マネジメント」 講話 「新学習指導要領で求められるもの」 「カリキュラム・マネジメント」 講話 「中核的リーダーに求められる資質・能力」 ～理論と実践の往還から学ぶ～ 講話・演習 「ミドルリーダーへのメンタルヘルス」	
第2日	7/5 木	午前9時30分～12時 午後1時～4時 (受付 午前9時～9時30分) 講話・演習 「教育公務員としての服務と教育法規」 「体罰の根絶」 講話 「情報セキュリティ」 講話 「特別支援教育の推進」 事務連絡 「研修第3,4日について」	市教育委員会職員
第3日	9月～ 12月	【学校会場授業研究】(学校課題実践研修) 「学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習指導の工夫改善」 ※「教育情報システム」の教材データベースに登録する とともに、実施報告書を第4日までに提出する。	受勤 講師 者校 校長・副校長等 宇都宮大学 教職大学院 教授 市教育委員会職員
第4日	1/15 火	午後2時～4時30分 (受付 午後1時30分～2時) 研究協議 「新しい時代に求められる教育」 ～社会に開かれた教育課程の実現～	宇都宮大学 市教育委員会職員
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・第3日の【学校課題実践研修】については、第2日に詳細を説明します。 ・第4日には、学校課題実践研修で実施したビデオとレポートをご持参ください。 	

○各研修の内容、実施形態、時間数、使用教材、進め方など

第 1 日目(5/7)に宇都宮大学教職大学院専攻長の松本敏より「中核的リーダーに求められる資質・能力～理論と実践の往還から学ぶ～」と題した講話を行い、本研修開発事業の趣旨などについて説明を行った。

また、第3日目(9月～12月)に、研修参加者の勤務校において公開授業を伴う「学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の工夫改善」と題した実践研修を行った。この研修には、教職20年目研修の対象者の中から希望者を募る形式とした。また、宇都宮大学教職大学院の専任教員及び教職大学院生が参加し、授業のリフレクションを共に行った。第3日目の概要は以下の通りである。

カリキュラム開発研修実施要項			
-教職20年目研修 学校会場授業研究-			
1 目的 学校会場授業研究協力校の研究授業及び授業研究会に参加し、教職大学院の教員・院生とともに授業実践の振り返り(Reflection)を行うことを通じて、学び続ける教員の在り方や校内研修におけるリーダーシップの意識を学ぶことにより、各学校における中核的リーダーとして活躍できる資質の向上を図る。			
2 日時 平成30年11月22日(木) 13:20～16:30			
3 会場 宇都宮市立藤川中央小学校			
4 日程			
時間	研修内容	会場	
13:00～13:35	受付	3階	
13:35～13:45	事務連絡	1階 図書室	
13:45～13:50	移動		
13:50～14:35 (5授業時)	授業参観 道徳科「せみりつのとくちようをかんとろう」 3年1組 教諭 生田 聡子 先生	専任教1階 会議室	
14:35～14:50	休憩・移動		
14:50～16:20	「授業研究会」(リフレクション) 指導者 宇都宮大学教職大学院 准教授 小野瀬 潤行 先生 宇都宮大学教職大学院 准教授 岡原 弘代典 先生 宇都宮大学教職大学院 担任教授 石塚 和夫 先生	1階 図書室	
16:20～	事務連絡		
5 その他 名札(職名)の着用をお願いします。			
宇都宮市教育委員会			

カリキュラム開発研修実施要項			
-教職20年目研修 学校会場授業研究-			
1 目的 学校会場授業研究協力校の研究授業及び授業研究会に参加し、教職大学院の教員・院生とともに授業実践の振り返り(Reflection)を行うことを通じて、学び続ける教員の在り方や校内研修におけるリーダーシップの意識を学ぶことにより、各学校における中核的リーダーとして活躍できる資質の向上を図る。			
2 日時 平成30年12月5日(木) 13:25～16:30			
3 会場 宇都宮市立五反田小学校			
4 日程			
時間	研修内容	会場	
13:25～13:40	受付	2階	
13:40～13:50	事務連絡	かひやき ルーム	
13:50～13:55	移動		
13:55～14:40 (5授業時)	授業参観 道徳科「私たちの生活と教育」 大黒元希「子育て支援の取組を表現する政治」 小田元希「子育て支援の取組を表現する政治」 6年3組 教諭 山本 由美 先生	第2音楽室	
14:40～14:55	休憩・移動		
14:55～16:25	「授業研究会」(リフレクション) 指導者 宇都宮大学教職大学院 助産 松本 敏 先生 宇都宮大学教職大学院 准教授 菊地 尚典 先生	かひやき ルーム	
16:25～	事務連絡		
5 その他 名札(職名)の着用をお願いします。			
宇都宮市教育委員会			



学を会場として、第3日目に実施した

当日の公開授業の様子)

前頁の教職大学院教員に加え、教職大学院生が公開授業を参観し、その後のリフレクションにも参加した。

そして、第4日目(1/15)には、宇都宮大



公開授業を録画したビデオとレポートを研修参加者が持参し、それらを資料としてさらにビデオリフレクション及び研究協議を行った。この場にも宇都宮大学教職大学院専任教員及び教職大学院が参加した。第4日目の概要は以下の通りである。

**平成30年度
教職20年目研修
第4日 実施要項**

- 1 期 日 平成31年1月15日(火)
2 会 場 宇都宮大学教職大学院棟
3 日 程

時 程	研 修 内 容	会 場
13:30～14:00	受 付	教職大学院棟
14:00～14:20	講話「新しい時代に求められる教育 ～社会に開かれた教育課程の実現～」 宇都宮大学教職大学院 教授 松本 敏 先生	教職大学院棟 6号館B棟
14:20～16:30	Aコース(4人) 【指導者】 宇都宮大学教職大学院 教授 松本 敏 先生 " 准教授 小野瀬 善行 先生 " 准教授 司城 紀代美 先生 【担当事務局】 教育センター 副主幹・指導主事 菊池 睦	教職大学院棟 6号館B棟
	Bコース(3人) 【指導者】 宇都宮大学教職大学院 教授 久保田 善彦 先生 " 特任准教授 石嶋 和夫 先生 【担当事務局】 教育センター 副主幹・指導主事 鈴木 淳司	教職大学院棟 6号館B棟
	Cコース(3人) 【指導者】 宇都宮大学教職大学院 教授 日野 圭子 先生 " 准教授 菊地 高夫 先生 【担当事務局】 教育センター 指導主事 柴田 互	音楽棟7号館 ティーチング コモンズ

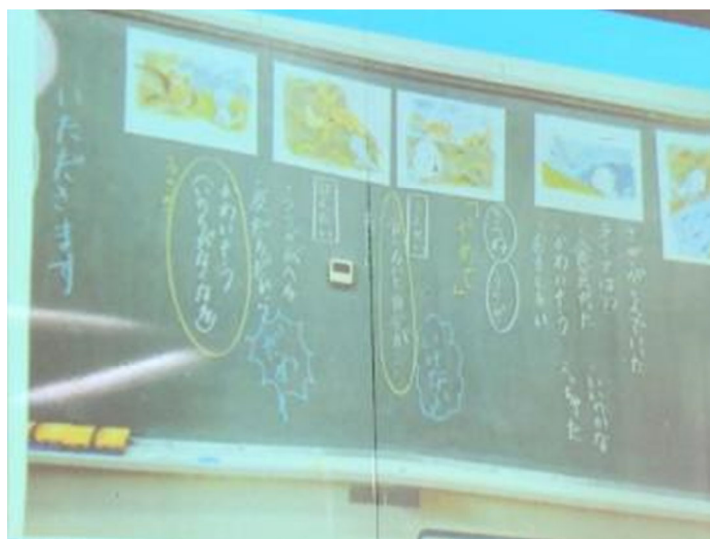
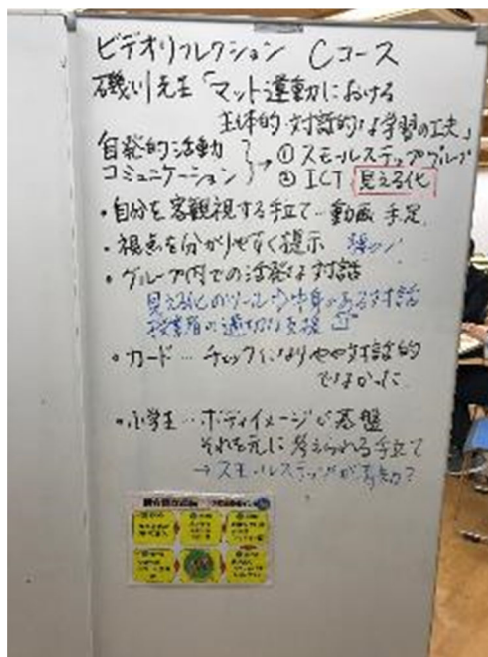
☆研修終了後、アンケートを記入の上、担当指導主事にご提出ください。

- 4 その他
報告書【様式1】および学習指導案【様式2】の提出及び教育情報システム「教材データベース」への登録をいただき、ありがとうございました。

宇都宮市教育委員会

当日は、まず、宇都宮大学教職大学院の松本敏より講話「新しい時代に求められる教育～社会に開かれた教育課程の実現～」があった。その後、研究協議として「ビデオリフレクション」を実施した。まず、宇都宮市立五代小学校の仁平由美教諭の授業を

検討に材料にして検討を行い、あわせて「ビデオリフレクション」の進め方などを参加者全員で確認した。ビデオリフレクションでは、まず授業者(研修者)が自らの授業に関して、「子どもの学びが成立した」と感じられた部分を15分だけ取り出し、そのシーンを一緒に鑑賞し、その後15分程度、参加者全員で議論・検討するという形式を取った。それぞれのチームには、宇都宮大学教職大学院の専任教員及び教職大学院生も入り、教職大学院生がファシリテーターを務める形で討議に参加した。



(当日のビデオリフレクションの様子)

○研修の評価方法, 評価結果

研修当日、アンケート調査を行って、効果进行评估した。それぞれ宇都宮大学教職センターおよび宇都宮市教育センターがとりまとめた結果の概要について報告したい。

(1) サマーセミナーについて

まず、「授業研究の運営と課題」の参加者の感想は以下の通りである。

整理番号	満足度について	その他（広報、研修内容など）について
0	教職大学院の院生や教員と学びを共有することで、より実践的な研修になりました。いい刺激をもらい、とても満足しています。	サマーセミナーのような研修の機会がたくさんあるとうれしいです。
1	授業研修会を実際に進めてさせていただきました。他の班の発表から改めて学ぶ部分もあり、勉強になりました。反面、自分の班の振り返りや自分の授業を見る視点はこれで行ったのかと悩むことがありました。（経験を積むことで解消されていくものかも知れませんが）	
2	午後の授業研究会で、生徒の様子を見ることで学びが成立しているかどうかを確認していくことが重要であることを学ぶことができたから。	とても有意義な時間だった。また機会があったら参加したい。
3		
4	今年度学習指導主任となり授業研究の方法について学びたいと思い受講しました。現場でやっていること、他の研修を受けて実践していることなどαのことが知ることができました。	
5		
6	研修は具体的でよかったです。校内研修を学校で担当しているので、具体的な知識やスキル等教えていただけたのもよかったです。	機会があったら参加したいです。ありがとうございました。
7	校内研修について考えなおす、見直すきっかけになった。授業の見方は、やはりとても難しかったが、よい変化を見取ることが校内の活性化にもなっていくことがわかった。また、大学院生との交流から、授業の実際や幅広く教育をこなせることが大切だと分かった。	
8	とてもいい刺激を受けました。また、院生さんとの情報交換もとても良かったです。	
9	授業のビデオを見るなど、新しい授業方法だった。受講者の話し合いもあり良かった。	各校に（全日・定時制両方ある学校には定時制の方にも）紙媒体で開催連絡が来ると良い（おかげで参加したい旨、管理職に申し出やすかった。（しかも「出張」扱いしてもらえた。）昼休み時間を学生等とずらして預けて、昼食（食堂）が混む前に食べられた。
10	じっくりと授業を見て、生徒の様子に注目するという経験が少なかったため、勉強になりました。	
11	他の学校の先生や、大学院生のみなさんの話を聞いたり、実際に授業を見て、協議したり勉強になりました。	

宇都宮大学教職センター作成資料より

参加者からより具体的で実践的な研修となったことという好意的な感想があげられている。また、教職大学院生との交流について、「いい刺激をもらい、とても満足」、「大学院生との交流から、授業の実際や幅広く教育をとらえることが大切だと分かった」、「院生さんとの情報交換もとても良かった」といった感想が挙げられている。

整理番号	満足度について	その他（広報、研修内容など）について
0	これまでの教育活動から、今後の教育活動のあるべき姿を理解することができた。	教職大学院がどのような雰囲気であるのか理解できてよかった。
1	現代における社会問題から、これからの学校を考えるという視点がとても新鮮でした。「学校は学校」と考えていたのですが、「時代が求める学校を考えていかねばいけない」、そう思いました。また、グループワークでの意見交換も、中学校、特別支援の先生方から聞けたこと、院生の知識を聞けたことはとても有意義なことでした。	またこのような機会がありましたら参加したいと思います。ありがとうございました。
2	教職大学院の学びを体感できたため。	今後もこういった取り組みをしていただけたら幸いです。
3		
4	小野瀬先生の授業を受けてみて来て来ました。とても分かりやすく、共感できる「小におちる」内容で、受講して良かったです。また来たいと思います。	
5	普段かわかることの少ない職種の人たちとかわかることができてよかったです。	
6	異職種、異年齢の方々と学び合う良い機会でした。勤務校の現状を客観的に分析することができ、明日からまた違った意識で取り組みたいと思います。ありがとうございました。	
7	久しぶりに自分とは異なる環境の先生方と話すことができ、刺激をもらえました。楽しかったです。小野瀬先生おつかれさまでした。	
8	異校種の先生方や学生の方とそれぞれの立場から意見を聞くことができ、改めて児童生徒に求められる力、私達が支援すべきこと、また本校で取り組むべき課題が見えてきました。今回は中堅研の研修として参加しましたが、学校に持ち帰り、職員研修の場で学んだことを広め、連携のきっかけとしたらと思います。	
9	学校をはなれた場から、学校がかかえる多くの問題を広い視野で（自分なりに）考えられました。また、校種の違う先生方との話し合いも、とても勉強になりました。	先生の講義の進め方がとてもスムーズで、1日、大変有意義な時間がすごせました。ありがとうございました。

次に、「学校改革の実際と課題」の参加者の感想である。「教職大学院がどのような雰囲気であるのか理解できてよかった」、「教職大学院の学びを体感できた」という感想が挙げられている。

いずれの講義に関しても、教職大学院生から概ね好意的な感想が挙げられており、教職大学院生と現職教員が共に学ぶ機会を創出することは、大きな可能性を有していることが明らかになった。今後は継続的にこのような機会を設けて、それぞれの学修にどのような影響を及ぼしたのかについて、さらなる検討を重ねたい。

(2) 宇都宮市教育センター「教職 20 年目研修」について

宇都宮市教育センターがまとめたアンケート結果によれば、第4日目に参加した研修対象者全員が、「教職 20 年目研修」に対して高い評価（「満足」、「おおむね満足」）をしている。とりわ

け、教職大学院との協働が行われた第3日目そして第4日目の感想を下記に挙げることにした。

○今日の研修についてお答えください。(1～4の中から一つ選び○をつけてください)

(1) 学校会場授業研究会について

① 満足 2 おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(2) その他、御意見・御感想等ございましたらお願いします。

授業を参観していただき、自分が気付かなかった点を指摘していただきとてもよい勉強になりました。対話的な学びの理想の姿が見えてきました。

第3日目当日、公開授業を行った研修対象である教員のひとりから左記のような感想が挙げられた。当日、授業後のリフレクションでは教職大学院生が積極的に授業中の児童の様子や学びの姿を報告し、それを基に省察が深まった様子が見えてくる。

次項に示すに第4日目の感想から、主に教職大学院との協働に関する記述があるものを列挙する。各感想とも、学校現場ではなかなか実感できない「リフレクション」の意義および意味について体験することについて好意的な感想を寄せているのがわかる。

(2) 本日の研究協議「ビデオリフレクション」について該当する箇所にお印をお付けください。

① 満足 2 おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(3) 本日の研修全般についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

「リフレクション」という作業も、現場ではなかなかできない。次の仕事にうつっていくわけにはならないという現状もあり、今日の研修が、重要性の分かりました。現場に戻っても「リフレクション」を忘れない、学びつづける授業でありたいと思ってお世話になりました。

(2) 本日の研究協議「ビデオリフレクション」について該当する箇所にお印をお付けください。

① 満足 2 おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(3) 本日の研修全般についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

・授業研修というと指導案の作成に力を入れることが多く、(たまたま)先生の本音や生徒の反応から授業を振り返ることや、今まではあまりなかった。とても参考になりました。

(2)本日の研究協議「ビデオリフレクション」について該当する箇所に○印をお付けください。

1 満足 ② おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(3)本日の研修全般についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

「ビデオリフレクション」という手法を周知する、という意味では、
今回初めて 大学院との企画があつてよかった。
しかし、20年目の先生同士の関わりがあまりない研修
だったところもある

(2)本日の研究協議「ビデオリフレクション」について該当する箇所に○印をお付けください。

① 満足 2 おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(3)本日の研修全般についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

大学院の先生方や学生の皆様からのご意見やアドバイスが
深く大変参考になりました。小人数でとてもよい時間
でした。

(2)本日の研究協議「ビデオリフレクション」について該当する箇所に○印をお付けください。

① 満足 2 おおむね満足 3 やや不満 4 不満

(3)本日の研修全般についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ビデオリフレクションという形式での話し合いが今までに
ない形で映像を見て話すということがよかったです。

同研修の4日目に参加した教職大学院生も以下のような感想を述べている。様々な交流のなかで、それぞれに学びが多かったことを示唆している。

20年目の先生方と共に、授業研究会を行い感じたことがあります。ベテランの先生方が授業を語る視点は、教える側の立場からでした。「教師がどのように教えているか。」という見方から語られる話が多かったように感じます。研修に参加した2名の学卒院生が授業を見る視点は、学んでいる子ども側から授業を捉えたものでした。「自分は子どもの声や、子どもの活動を中心に授業をやりたいと思っているが、準備が足りないと感じている。今日、意欲的に取り組む子供の姿から準備の大切さを学んだ。」「単元の始めに、子どもたちが自分たちで学習課題をつくることに興味があった。今日は、子どもたちの姿に、その大切さが感じられた。」と語る2名の学卒院生の話を聞いた、ベテランの先生方は「そのように授業を見ることを意識していなかった」と、感想を述べられていました。ベテランの授業から若手が学ぶ。またベテランが若手から学ぶこともできるという、一つの例ではないかと、感じます。今後、現場に増えていく若い先生方と、ベテランの先生方が子どもの姿を通して学び合うことができる可能性を感じた一日となりました。

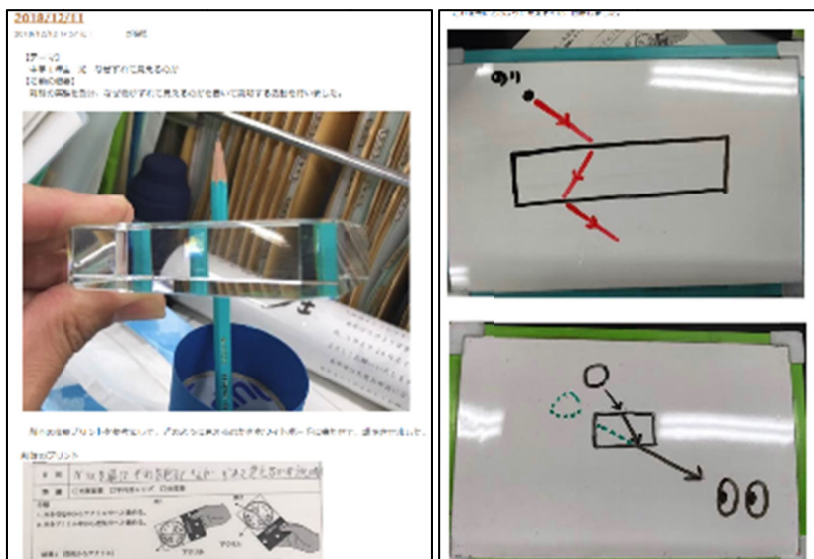
3, 電子ポートフォリオシステムによる継続的な省察

(1) 栃木市教育研究所における活用

平成29年度から、教材開発部会、授業づくり部会、学級づくり部会、児童生徒指導部会のデジタルポートフォリオを設置、運用している。現在、教材開発部会は8名、授業づくり部会は11名、学級づくり部会10名、児童生徒指導部会は5名が登録されている。以下がトップページである。



例えば、教材開発部会では、自身の開発した教材とそれを活用した授業の様子が報告されている。メンバーは投稿情報を相互に閲覧し、実践研究の状況と考察を理解することができた。各投稿には、関係者がコメントをすることで、活動のリフレクションを支援した。





コメントが遅くなりました。申し訳ありません。生徒の思考の過程が見られて、また自分なりの仮説を立て、説明していることに、大変感銘を受けました。分かって考えをまとめているのも面白いです。指導計画の立案、実験の準備など田中先生には大変お世話になりました。良い実践をして頂き、勉強になりました。感謝しました。

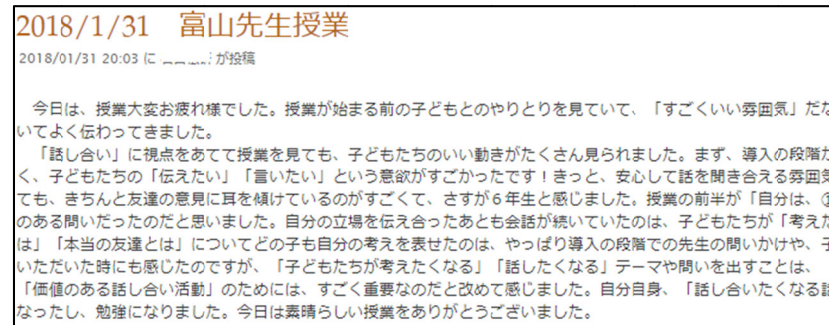
返信



難しい内容でしたね。3つの考察が描かれたワークシートで満足感を得る生徒もいれば、得た知識やキーワードが増えたことで満足感を得る生徒もいたことでしょ

返信

以下は、授業作り部会は授業研究の様子を投稿している。部会メンバーは、直接授業参観をしているが、授業研究会で語りきれなかったこと、授業研究会を受けた新たな気づきを投稿している。



各部会は、対面での研修を基礎とした上で、デジタルポートフォリオを活用しているため、投稿やコメントをし易い環境にある。実際に、投稿が活性化している部会もある、一方で、そうではない部会も見られる。教材開発部会のように日々の授業記録を投稿する場合は、相互にコメントをするルールを部会内で作る必要がある。授業作り部会の

ように、授業研究会のリフレクションを公開しあうことも効果的である。

(2) 栃木県総合教育センター中堅研修における活用

前年度の反省から、投稿を活性化するために、大学教員も投稿欄を設けた。これによって、受講生との距離を縮めることがねらいである。



The screenshot shows a forum interface for Utsunomiya University. On the left, there are two posts from members: 久保田さん (posted 2018/09/11) and 松本さん (posted 2018/08/31). The posts contain requests for help and information about the forum's purpose. On the right, there is a post from a university instructor dated 2018/09/16, which includes a detailed response and a link to a file. Below the instructor's post, there are two comments from other university instructors.

大学教員の投稿

受講生の投稿と大学教員のコメント

一部の活性化は見られたが、継続的な投稿にまでは発展しなかった。栃木市教育研究所のように、大学教員も含めた対面の研修を組織した上で、デジタルポートフォリオを活用する必要がある。

Ⅲ 連携による研修についての考察

(1) 連携を推進・維持するための要点

本年度の研修開発事業を通じて、宇都宮大学サマーセミナーにおける教職大学院の科目展開、そして宇都宮市教育センター「教職 20 年目研修」との協働、いずれも従来あるセミナーや研修といかに協力体制を築くかが連携を推進・維持するための要点であるといえる。換言すれば、「働き方改革」が叫ばれる学校環境において全く新しい連携事業を実施することは困難であるとの認識から、本開発事業では学校現場への多忙感への配慮という観点と「学び続ける教員」でありたいという現場の声を両立させることが、今後の連携事業の軸になってくると考えた。そのために、事前に宇都宮大学教職センター、宇都宮市教育センターとの連携・打ち合わせを緊密に行ったことが本

年度の成果につながったということができる。これは、昨年度の開発事業の結果において、連携先(教育委員会等)が研修のコミュニティのメンバーに以下に自然に入るかという示唆からも導かれたものである。

(2) 今後の課題と改善策

① 科目等履修制度および履修証明制度に向けた準備

現職教員と教職大学院生が様々な機会で協働して学ぶことへの理解を深めることができたが、本年度の研修開発事業の目的のひとつであった、科目等履修制度および履修証明制度に向けた仕組みを関係機関と検討することについて、具体的な作業まで落とし込むことができなかつたと考えられる。本年度の事業に参加した現職教員が教職大学院との協働的な学びに何を期待しているのかについてさらに事前・事後のアンケートを充実させると共に、その学修内容をどのように評価するのか(単位換算をどのようにするのか、履修時間の取扱いをどのようにするのか)について、他学の事例などを踏まえて検討していくことが引き続き重要である。

IV その他

[キーワード] 省察, 教職大学院, デジタルポートフォリオ
ビデオリフレクション, ミドルリーダー, 中堅教員
[人数規模] C 20~30人(各研修の平均的な参加者数)
[研修日数(回数)] C. 10日以上

【問い合わせ先】

国立大学法人 宇都宮大学
教育学研究科 教育実践高度化専攻(教職大学院)

所在地 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350 番地
TEL 028-649-5288(松本 敏)